

---

# 人工知能システム社会応用

第9回：事例1 開発プロジェクト企画案の発表

2025.4.24(木)

林越 正紀

Masanori Hayashikoshi

大阪国際工科専門職大学 情報工学科

# Outline

---

- 講義内容
- 事例1 評価について
- AIシステム開発企画案の発表  
(各チーム: 発表8分 + QA4分)

# 講義内容

---

## □ 第9回：事例1 開発プロジェクト企画案の発表

テーラーメイド型ビジネスを意識して個々の課題に対する細やかな対応を行う複数の人工知能システム開発案を提案。チームで議論した開発プロジェクトの企画案を発表し、全員で共有する。

# 第1事例を考える スケジュール感

2025.4.17 見直し

第1事例を考える (スケジュール感)			
第4回	4/14(月)	テーマ(課題と解決の手法)の調査(1)	テラーメイド型ビジネスを意識して個々の課題に対する細やかな対応を行う複数の人工知能システム開発案を提案する。その中でよいものを3個まで選択、詳しく検討する。
第5回		テーマ(課題と解決の手法)の調査(2)	前回のブレインストーミングで選択したテーマについて課題解決に関連する知識を調べ、テーマに沿った研究・開発方針、プロジェクトの開発草案と実現可能性を検討する。
第6回	4/17(木)	テーマ(課題と解決の手法)の調査(3)	テーマを決めるにあたり、ソリューション内容(問題の明確な定義、解決方法、解決策の評価方法、目標設定、解決策の実現方式)を検討する。
		個別ヒア(随時)	開発テーマをチーム単位に発表し、担当教員のアドバイスを参考にテーマを練る。
第7回	4/21(月)	テーマ(課題と解決の手法)の調査(4)	前回の検討内容を踏まえた上で候補となるテーマを提示、担当教員の承認を受けて、最終的にテーマを決める。
第8回		研究・開発計画	テーマに基づき、課題バラシを行い、システム開発のためのアクションプランを練る。各々のアクションに関して、優先順位、業務分担、スケジュールを作成する。
第9回	4/24(木)	事例1 企画案発表(発表8分+QA4分)	決定したテーマ、研究・開発プロジェクトの企画案を全員で共有する。

# 第1事例を考える スケジュール感

2025.4.17 見直し

第1事例を考える (スケジュール感)			
第10回 第11回	4/28(月)	設計・システム開発(1)	最初の課題に関して、背景および解決するための知識を調べ、課題解決のためのシステム実現方法を検討する。 実現方法において、機械学習のモデル(アルゴリズム)に入力するデータ群、実際に使う特徴量や教師データを勉強し、アルゴリズムを決める。 必要に応じて、学習データの収集方法や事前学習のプロセスも検討する。
第12回 第13回 第14回	5/8(木) 5/12(月)	設計・システム開発(2)  学習と検証の実行(1), (2)  学習データの変更、パラメータの変更	提案アルゴリズムを適用したシステム全体の処理方式と入出力、データの流を設計する。それに応じてフローチャートを作成し、プログラミングを推進する。(提案アルゴリズムをプログラミングで実現する)  機械学習、深層学習等の学習と検証実験を行い、各種パラメータと結果のグラフ化を行う。検証結果を踏まえて学習データの変更を行うため、データ構造を分析する。  学習データの分析結果から、学習データの一部入れ換え、全体更新、追加などの実験を行い、自分で集めた新しい学習データで、動作が進むこと、性能が変化していくことを確認する。
第15回	5/15(木)	総合評価  発表資料作成	デバッグおよびテスト(機能単体,システム全体)を行い、不具合改善を行う。 実装機能の評価を行う。(問題点解決の精度,システム機能・性能・品質面など)
第16回 第17回	5/19(月)	事例1 総合発表 (発表12分+QA6分)	プログラミングで実現した最初の課題をチーム単位に発表、担当教員からアドバイスを受ける。

# 評価方法について(案)

## □ 評価

- 科目認定条件
  - ※出席率について80%以上であること。
  - ※定められた提出物が80%以上提出されていること。
- 科目評価方法(仮)
  - 開発システムの完成度（40%）
    - ・事例1(企画案5+総合5), 事例2(企画案5+総合15), 講義・グループワークへの取り組み(10)
  - 総合発表評価（40%）
    - ・事例1(企画案5+総合5), 事例2(設計企画レポート10, 企画案10+総合10)
  - レポート（20%）に応じて評価する。
    - ・事例1(10), 事例2(10)、自己の取り組みアピールも含む

発表(グループ)+レポート提出(各人の貢献度を評価)をセットで評価する予定。

# 評価方法について(案) グループ点(60点)+個人点\*(40点)

- 事例1 (30点) 発表レポートの評価時にLMSで各自に公開
  - 開発システム完成度(企画案5+総合5) ← 技術視点で評価
  - 発表(企画案5+総合5点) ← アイデア、プレゼンを評価
  - 発表レポート(10点\*) ← 事例1まとめと、自己のグループへの貢献度をアピール
  
- 事例2 (60点) 発表レポートの評価時にLMSで各自に公開
  - 設計企画レポート(10点\*) ← 設計企画書：レポート課題の出来を評価
  - 開発システム完成度(企画案5+総合15) ← 技術視点で評価  
(成果の公開(ポスター,デモ動画等)は、本項目で評価)
  - 発表(企画案10+総合10) ← アイデア、プレゼンを評価
  - 総合レポート(10点\*) ← 全体まとめ(自己のグループへの貢献度のアピールを含む)
  
- グループワークへの取り組み(10点\*) 非公開
  - 6点(3点\*2事例)をベースに加減点 + 欠席1回で-1点 (事例1:4/14~5/19,事例2:6/2~7/28計上) + 発表に対する質問・コメントで個人加点 (結果的にマイナス点もあるので要注意, -9~10点+a)

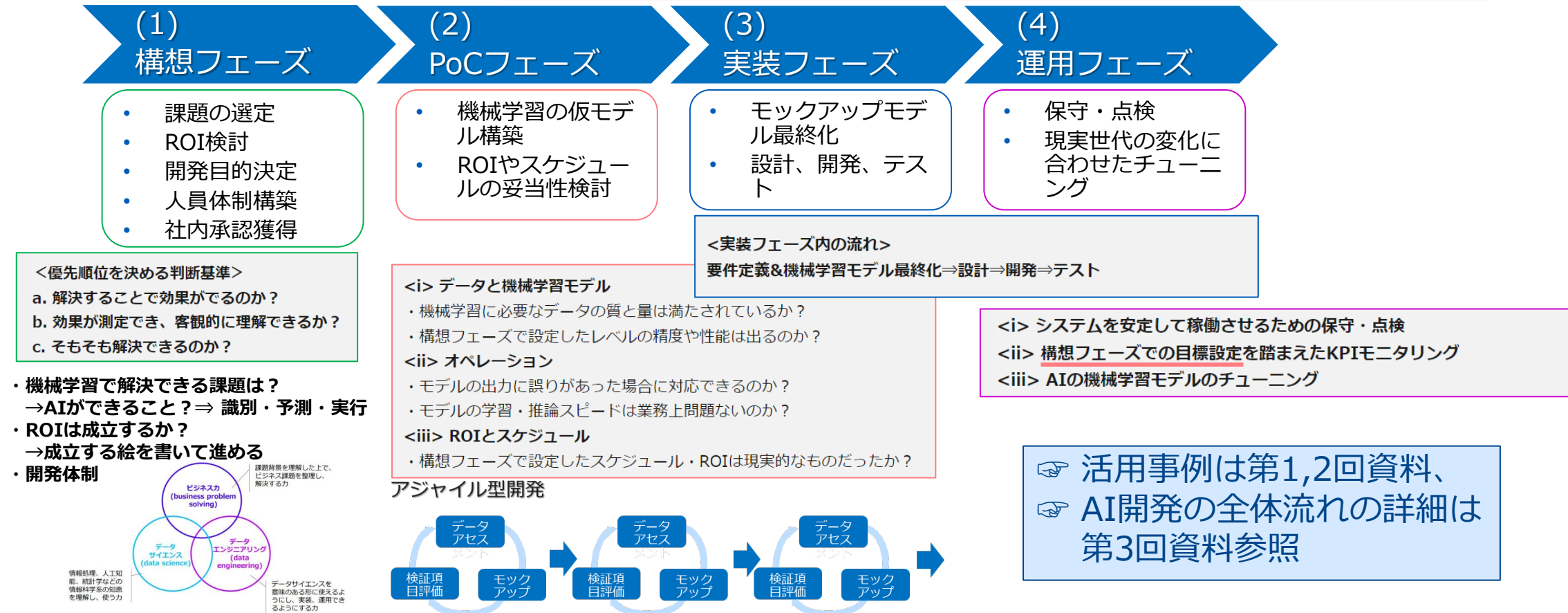
# 評価のポイント 事例1

## ■ AI開発の全体の流れ

▶事例1では、構想～PoC/実装フェーズを実習

▶事例1の評価は、構想フェーズの仕上がりにも主眼を置く

- PoC/実装の完成度は高い方がベターだが、構想フェーズでAIシステム開発提案に向けた議論が十分できているか？
- 社会/企業の抱える問題に対する課題を十分に抽出できて、ビジネス性の高い提案に繋がられているか？ など





# 事例1 企画案発表（評価のポイント）

発表8分+QA4分

発表順は、A~Fの順

▶発表資料は、代表者が提出  
提出期限：翌日(4/25)まで

## □ 事例1 企画案発表

### ■ 評価ポイント

(1) 開発システム完成度(5点, 10点満点で評価して5点に調整, 端数切り捨て)

- 企画案策定に対して、解決策提案がテクニカルに進められているか？
  - 問題提起 (SDGsへの貢献に対しての議論ができているか？など)
  - 課題設定 (課題分析、優先度など)
  - 開発目的 (誰のため(テラーメイド的視点) に、何のシステムを開発するか？)
  - ROI (開発費回収目途？収益を目指すための方向付け、見積りはラフで可)
  - ビジネス性 (実現可能性、市場規模、(コスト)、ビジネスへの展開性、など)
  - 開発体制
  - スケジュール

等をまとめて簡潔に説明 (開発着手時、必要に応じ適宜見直しは可)

(2) プレゼン (5点)

- アイデア
- 発表 (開発システムの重要性に対する説得性、訴求力など)

● 評価結果は、2発表(チーム点)+レポート提出(個人点)をセットでフィードバックします

# グループ分け

岡田 理玖 L	A
佐々木 穂高	A
藤村 勇仁 F	A
水谷 知隆	A
山名 ひなた	A
板井 彰汰	B
宇野 公子 F	B
椿井 雄峰	B
新村 太雅	B
平岡 大知 L	B
前川 尚輝	B

川人 大徳	C
坂上 聖流	C
笹本 洸雅	C
棚田 春輝 L	C
野村 海人 F	C
山中 大輔	C
江藤 大晴 L	D
久保田 龍矢	D
柴田 悠翔	D
須田 大成 F	D
中内 優翔	D
畑 英臣	D

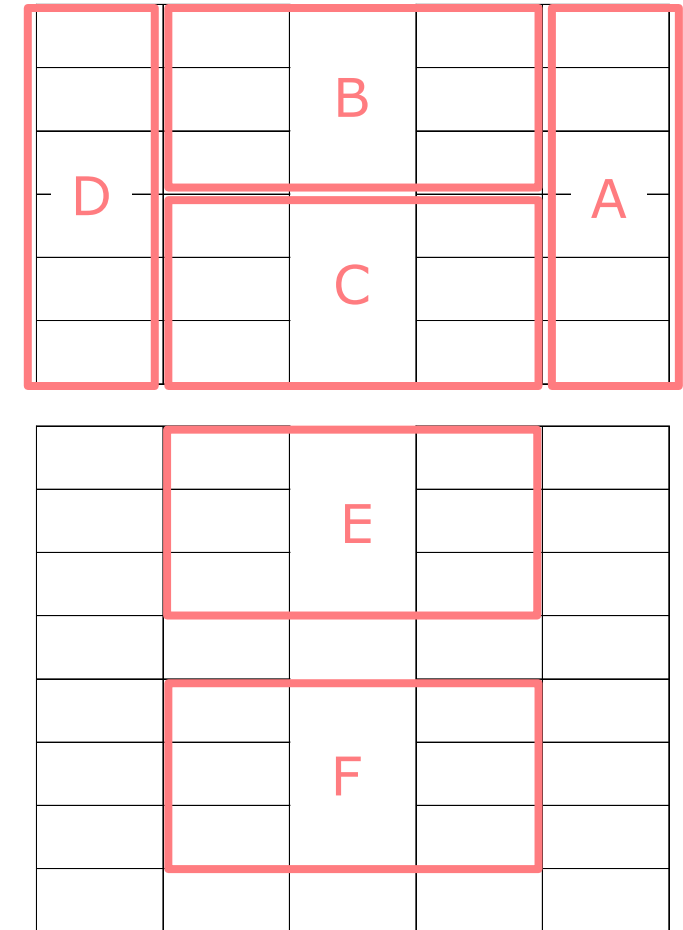
上田 晋太郎	E
大槻 玲弥	E
嶋村 亮来 L,F	E
田中 源輝	E
坪倉 亮太	E
共田 仁俊	E
安宅 陽祐	F
角田 優翔	F
吉良 優花 L	F
堤 陽飛	F
中嶋 大智	F
松本 琉希 F	F

(あいうえお順)

L:リーダー, F:ファシリテーター

スクリーン

教卓



---

■ 第9回 人工知能システム社会応用 おわり

お疲れさまでした。